

令和3年度募集

# 進路説明会要項

令和2年11月 5日（木）  
（10:45～11:35 体育館）

## 次 第

- 1 校長あいさつ
- 2 進路説明
- 3 諸連絡



長久手市立長久手中学校

# 目 次

|                              | ページ数 |
|------------------------------|------|
| 1 進路・生き方の選択について .....        | 1    |
| 2 就職を希望する場合 .....            | 1    |
| 3 専修学校を希望する場合 .....          | 2    |
| 4 私立高等学校（全日制課程）を希望する場合 ..... | 4    |
| 5 公立（県立・市立）高等学校を希望する場合 ..... | 6    |
| 6 国立学校を希望する場合 .....          | 10   |
| 7 愛知県外の学校を受験する場合 .....       | 10   |
| 8 その他の学校を受験する場合 .....        | 10   |
| 9 その他 .....                  | 11   |
| 10 最後に .....                 | 13   |

## 巻末資料

- 資料 1 令和 2 年度 愛知県公立高等学校をめざす皆さんへ（中学 3 年生用）
- 資料 2 面接の実施形態及びグループ討議について
- 資料 3 面接及び特別検査について
- 資料 4 愛知県公立高等学校の通学区域並びに群及びグループ分けについて
- 資料 5 一般選抜における校内順位の決定方式について
- 資料 6 専修学校、私立高等学校、国立高等学校受験日一覧
- 資料 7 コースを設置する高等学校・学科について
- 資料 8 障害、病気及び事故にかかる特別措置（公立高等学校）
- 資料 9 自己申告書 A
- 資料 10 今後の進路日程について

# 1 進路・生き方の選択について

- (1) 働く人に学ぶ会、職場体験等を通して勤労観・職業観を身に付けてきた。
- (2) 上級学校を学ぶ会、上級学校見学等を通して、上級学校の特色や様子を調べてきた。
- (3) (1)(2)を生かしながら、本人の将来の夢や目標を明確にしたり、家庭の状況や本人の性格・特性に合わせてたりすることで、進路の選択・決定を行う時期が迫っている。

## 2 就職を希望する場合

### (1) 求人状況

- ・ 求人は増えているが、希望する職業には就きにくい。
- ・ 就職希望者は、すぐに学級担任に伝える。  
(遅くとも令和2年11月9日(月)までに)
- ・ 中卒対象者の一斉選考が進学試験の前にあるため、「不合格だったら就職を・・・」という考え方は、成り立たない。

### (2) 就職先決定までの手順

- ① 職業適性検査
- ② 就職希望先の選択  
さまざまな条件を考慮して、本人・保護者で選択する。  
(勤務内容・時間、給料、休日、交通費の支給、定時制高等学校等への通学の可否等)
- ③ 職業紹介相談会  
ハローワーク職員＋本人＋保護者＋学級担任で希望先を検討・決定する。
- ④ 職場見学  
本人＋学級担任または保護者で希望先を訪問し、職場を見学する。
- ⑤ 就職選考(就職試験)  
令和3年1月25日(月)に、県下一斉に実施される。

### (3) 働きながら学ぶには(高卒の資格を取る)→ 職場の条件を考慮して

- ・ 定時制高等学校
- ・ 通信制高等学校
- ・ 企業内学園(トヨタ工業学園・デンソー工業技術短期大学校工業高校課程)
- ・ 自衛隊高等工科大学校(国家公務員)

### (4) 働くための技術や資格を取得するには(高卒の資格は取れない)

公共職業能力開発施設(窯業高等技術専門校)

### 3 専修学校を希望する場合

#### (1) 募集

- ・ ほとんどの学校で、推薦入学と一般入学による募集がある。
- ・ 推薦入試合格者は、専修・私立・公立・国立を問わず他校を受験できない。

#### (2) 選抜方法

##### ① 推薦入試

##### a 校内審査

- ・ 12月 1日（火）推薦依頼書配付開始（本人から担任へ申し出る）
- ・ 12月 8日（火）推薦依頼書提出〆切
- ・ 12月16日（水）推薦委員会（出願資格審査、校長推薦）

##### b 出願

- ・ 推薦出願資格（推薦条件）は、次の通りである。

- ① 令和3年3月に中学校を卒業見込みである者。
- ② 当該の学校・学科を志望する強い動機・理由が、明白かつ適切である者。
- ③ 当該の学校・学科に対する適性及び強い興味・関心を有する者。
- ④ 中学生としてふさわしい生活態度であること。
- ⑤ 各学校に推薦しうる学力を満たしていること。

- ・ 出願期間は、1月20日（水）から各校が指定した期日まで。今年度は郵送で出願する（1月19日（火）送付予定）。
- ・ 検定料は、各専修学校で異なる。（銀行等で納付する場合が多い。）

##### c 入学試験

- ・ すべての専修学校で1月27日（水）に実施する。  
（私立高等学校の推薦入試日と同日。）

##### d 選考方法

- ・ 入学試験の方法は各専修学校によって異なる。
- ・ 面接試験は、人物を見るために必ず行われ、重視する学校が多い。

##### e 合格発表・入学手続き

- ・ 合格発表は3日以内に行われる。  
（本人・中学校長あてに合否通知が郵送される場合が多い。）
- ・ 入学手続きは、指定された期日までに納付金を納めることから始まる。

☆ c～e に関しては、専修学校ごとに異なるため、募集要項で確認する必要がある。

## ②一般入試

### a 受験校決定

- ・ 2学期の個人懇談会（12月10日（木）～15日（火）の4日間）で受験校を決定する。
- ・ 組み合わせ次第で、複数校受験することが可能である。  
（私立・公立・国立高校との併願も可能である。）

### b 出願

- ・ 出願期間は、1月25日（月）から各校が指定した期日まで。今年度は郵送で出願する（1月22日（金）送付予定）。
- ・ 検定料は、各専修学校で異なる。（銀行等で納付する場合が多い。）

### c 入学試験

- ・ 各専修学校が独自に定めるが、2月2日（火）・3日（水）・4日（木）の実施が多い。  
（2月2日（火）・3日（水）・4日（木）は、私立高等学校の一般入試日と同日。）

### d 選考方法

- ・ 入学試験の方法は各専修学校によって異なる。
- ・ 面接試験は、人物を見るために行われ、重視していることが多い。

### e 合格発表・入学手続き

- ・ 合格発表は1週間以内に行われる。  
（本人・中学校長あてに合否通知が郵送される場合が多い。）
- ・ 入学手続きは、指定された期日までに納付金（一時金）を納めることから始まる。

☆ c～e に関しては、各専修学校ごとに異なるため、募集要項で確認する必要がある。

## 4 私立高等学校(全日制課程)を希望する場合

### (1) 募集

- ・ ほとんどの学校で、推薦入試と一般入試による募集がある。
- ・ 多くの学校で、推薦入学で募集する人数の方が多い。
- ・ 推薦入試合格者は、専修・私立・公立・国立を問わず他校を受験できない。

### (2) 選抜方法

#### ① 推薦入試

##### a 校内審査

- ・ 12月 1日(火) 推薦依頼書配付開始(本人から担任へ申し出る)
- ・ 12月 8日(火) 推薦依頼書提出〆切
- ・ 12月16日(水) 推薦委員会(出願資格審査、校長推薦)

##### b 出願

- ・ 推薦出願資格(推薦条件)は、次の通りである。

- ① 令和3年3月に中学校を卒業見込みである者。
- ② 当該の学校・学科を志望する強い動機・理由が、明白かつ適切である者。
- ③ 当該の学校・学科に対する適性及び強い興味・関心を有する者。
- ④ 中学生としてふさわしい生活態度であること。
- ⑤ 各学校に推薦しうる学力を満たしていること。

- ・ 出願期間は、1月20日(水)～22日(金)。今年度は郵送で出願する(1月19日(火)送付予定)。
- ・ 検定料や支払い方法は、各私立高等学校で異なる。

##### c 入学試験

- ・ すべての私立高等学校で1月27日(水)に実施する。  
(専修学校の推薦入試日と同日。)

##### d 選考方法

- ・ 入学試験の方法は各私立高等学校によって異なる。
- ・ 面接試験は、人物を見るために必ず行われ、重視する学校が多い。

##### e 合格発表・入学手続き

- ・ 合格発表は3日以内に行われる。
- ・ 入学手続きは、指定された期日までに納付金を納めることから始まる。

☆ c～e に関しては、私立高校ごとに異なるため、募集要項で確認する必要がある。

## ②一般入試

### a 受験校決定

- ・ 2学期の個人懇談会（12月10日（木）～15日（火）の4日間）で受験校を決定する。
- ・ 組み合わせ次第で、複数校受験することが可能である。（専修・公立・国立高校との併願も可能である。）

### b 出願

- ・ 出願期間は、1月25日（月）から各校が指定した期日まで。今年度は郵送で出願する（1月22日（金）送付予定）。
- ・ 検定料や支払い方法は、各私立高等学校で異なる。

### c 入学試験

- ・ 各私立高等学校が独自に定めるが、2月2日（火）・3日（水）・4日（木）の実施が多い。  
（2月2日（火）・3日（水）・4日（木）は、専修学校の一般入試日と同日。）

### d 選考方法

- ・ 入学試験の方法は各私立高等学校によって異なる。

### e 合格発表・入学手続き

- ・ 合格発表は1週間以内に行われる。
- ・ 入学手続きは、指定された期日までに納付金（一時金）を納めることから始まる。

☆ c～e に関しては、私立高校ごとに異なるため、募集要項で確認する必要がある。

## (3)インターネット出願について

インターネット出願のフォーマットは各校によって異なる（大きく5種類程度）が、基本的な流れはどの学校もほぼ同じである。ここには大まかな流れを示すが、必ず各学校のインターネット出願の方法を確認すること。

- ① マイページ登録等で、出願者の情報を入力する。
- ② 出願情報を入力する。
- ③ 中学校に、申込内容確認書をプリントアウトしたものを提出する。

(注意) 中学校が申込内容を確認するまでは、入金手続きを絶対にしない。一度入金をしてしまうと、間違っていた際の修正ができなくなる。入金しても良い時期は中学校から知らせる。

- ④ 中学校の確認が済んだら、再度、出願ページから入金手続きをする。
- ⑤ 願書をプリントアウトして中学校に提出をする。

(③、⑤は必要のない学校もある。)

## 5 公立(県立・市立)高等学校(全日制課程)を希望する場合

☆ 合格した場合は、必ずその学校に進学することを前提として受検してください。

### (1) 募集

- ・ すべての公立高等学校で、推薦選抜と一般選抜による募集がある。
- ・ すべての公立高等学校で、推薦選抜の割合が次のように決まっている。  
普通科・・・・・・・・・・募集人員の10%～15%程度  
総合学科・専門学科・・・募集人員の30%～45%程度  
(一般選抜は、募集人員から推薦する人数を引いた人数が募集される。)
- ・ 専修学校・私立高等学校・国立学校の推薦受験での合格者以外の生徒が受検することができる。

### (2) 選抜方法

#### ① 推薦選抜

##### a 校内審査

- ・ 1月 7日(木) 推薦依頼書配付開始(本人から担任に申し出る)
- ・ 1月28日(木) 推薦依頼書提出〆切
- ・ 2月 1日(月) 推薦委員会(出願資格審査、校長推薦)
- ・ 3学期の個人懇談会(2月4日(木)、5日(金)、8日(月)の3日間)で推薦委員会の結果を伝える。

##### b 出願

- ・ 推薦出願資格(推薦条件)は、次の通りである。

- ① 令和3年3月に中学校を卒業見込みである者。
- ② 当該の学校・学科を志望する強い動機・理由が、明白かつ適切である者。
- ③ 当該の学校・学科に対する適性及び強い興味・関心を有する者。
- ④ 中学生としてふさわしい生活態度であること。
- ⑤ 各学校に推薦しうる学力を満たしていること。
- ⑥ 各学校から示される「推薦選抜実施要項」の「推薦基準」の㉗～㉕のいずれかに当てはまること。
  - ㉗ 運動・文化・芸術・奉仕活動等の諸活動のいずれかにおいて優れた能力・適正及び実績等を有する者。
  - ㉘ 恵まれない環境を克服し、向学心に富み、生活態度が他の模範となる者。(詳細は【資料1】参照)
  - ㉙ 調査書の学習の記録が優秀で、学習活動において他の模範となる者。
  - ㉕ 進路希望が明確で、将来、当該学科に関する職業に就く意志を有する者。(普通科を除く)



- ・ ⑥については、12月上旬までには、各公立高校のホームページに「推薦選抜実施要項」の「推薦基準」が示される。
- ・ 出願日は、2月17日(水)、2月19日(金)。県立高校は郵送で出願する(2月15日(月)送付予定)。市立高校は持参する。
- ・ 検定料は2,200円。  
(納入方法は、県立高校は収入証紙、市立高校は現金)  
(収入証紙は長久手中学校で一括購入)

### c 入学検査

- ・ 学力検査は、一般選抜と同様に行う。  
Aグループ3月5日(金)、Bグループ3月10日(水)
- ・ 面接検査日は、Aグループ3月8日(月)、Bグループ3月11日(木)

### d 選抜方法

- ・ 中学校が作成する推薦書・調査書等の書類審査および面接による。
- ・ 推薦書は、推薦の理由、第2学年の学習成績等が記載される。
- ・ 調査書は、第3学年の学習成績、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録、諸活動の記録及び特技、出欠の記録等が記載される。
- ・ 面接は、「自己の特性などを1分間程度で答える質問」等に答える。  
(面接の実施形態は【資料2】に記載。)  
(推薦選抜であっても一般選抜における面接も同時に行われる。)
- ・ 【資料3】に記載されている高等学校の学科は、特別検査が行われる。

### e 推薦選抜の流れ

- ・ 推薦選抜で合格した場合は、一般選抜の学力検査をしなかったものとなる。
- ・ 推薦選抜で不合格だった場合は、一般受検者としての扱いとなる。

### f 合格発表・入学手続き

- ・ 合格発表は、3月18日(木)午前10時に、各高等学校に掲示される。(変更の可能性もある)
- ・ 合格通知書の受領は長久手中学校の教員が行い、中学校にて本人に配付される。
- ・ 入学手続きは、各校の定める日時に行われる。

## ②一般選抜

### a 受検校決定

- ・ 3学期の個人懇談会（2月4日（木）、5日（金）、8日（月）の3日間）で受検校を決定する。
- ・ 1校1学科または2校2学科に出願することができる。  
（専修・私立高校の合否結果をもとに受検校を決定する。）
- ・ 2校2学科に出願する場合は、一方を第1志望とし、他方を第2志望とする。（推薦受検者は、推薦受検校を第1志望校とし、他校を第2志望として出願することができる。）
- ・ A・Bグループのいずれか一方、または双方の高等学校へ出願することができる。ただし、異なった群に属する普通科の2校へ出願することはできない。  
（群・グループ分けの詳細は、【資料4】参照）

### b 出願

- ・ 出願期間は、2月18日（木）、2月19日（金）。県立高校は郵送で出願する（2月15日（月）送付予定）。市立高校は持参する。
- ・ 検定料は2,200円。  
（納入方法は、県立高校は収入証紙、市立高校は現金）  
（収入証紙は長久手中学校で一括購入）

### c 入学検査

- ・ 学力検査日は、Aグループ3月5日（金）、Bグループ3月10日（水）
- ・ 面接検査日は、Aグループ3月8日（月）、Bグループ3月11日（木）

### d 選抜方法

- ・ 中学校が作成する調査書等の書類審査および学力検査および面接の結果を資料として、高等学校教育を受けるに足る資質と能力を判定して行われる。
- ・ 面接は、3分から5分程度行われる。
- ・ 【資料3】に記載されている高等学校の学科は、特別検査が行われる。

### e 合否の手順

- ① 当日の学力検査（110点満点）と、調査書の学習の記録の評定合計（45点満点）を2倍した数値（90点満点）による分布表を作成する。

＜専門学科で傾斜配点のある科の例＞

（学力検査・・・国際英語科及び国際教養科→外国語（英語）が1.2倍）

（評定・・・スポーツ科学科→保健体育が1.5倍、

音楽科→音楽が1.5倍

美術科→美術が1.5倍

国際英語科及び国際教養科→外国語が 1.5 倍)

- ② 受検者を分布表に基づき「A」と「B」に分ける。  
（「当日の学力検査」と、「調査書の学習の記録の評定合計を2倍した数値」がともに各高等学校の定める基準人数内にある者について、その他の入学選抜資料を総合的に判断し「A」とする。それ以外の受検者を「B」とする。）
- ③ 校内順位の決定は「A」、「B」の順序で、総合的に行う。
- ④ 「B」における順位決定については、各高等学校があらかじめ選択した次のⅠ、Ⅱ、Ⅲのいずれかの方式によって得られた数値を基礎資料とした上で、総合的に行う。（各高等学校の選択の詳細は、【資料5】参照）
- Ⅰ（評定得点）＋（学力検査合計得点）  
Ⅱ {（評定得点）×1.5}＋（学力検査合計得点）  
Ⅲ（評定得点）＋{(学力検査合計得点)×1.5}
- ⑤ 第1志望校、第2志望校ともに合格圏内にあるときは、第1志望校を合格校とする。この結果、欠員の生じた場合は、当該校を志望校とした受検者の中から、繰り上げて合格者を決定する。
- ⑥ 第1志望校、第2志望校で合格判定の方法に違いはない。

#### f 合格発表・入学手続き

- ・ 合格発表は、3月18日（木）10時に、各高等学校に掲示される。（変更の可能性はある）
- ・ 合格通知書の受領は長久手中学校の教員が行い、中学校にて本人に配付される。
- ・ 入学手続きは、各校の定める日時に行われる。
- ・ 3月19日（金）までに合格辞退者が確定するので、補欠合格のある場合がある。その場合は、3月19日（金）午後2時以降に、高等学校長から、長久手中学校長に連絡がある。補欠合格を受け入れるかどうかの意思確認を即答しなければならないので、不合格者は必ず連絡が取れるようにしておく。
- ・ 定員に満たない学校・学科では第2次選抜を実施する。
- ・ 第2次選抜の出願資格は、県内のいずれかの私立・公立・国立高等学校を志願かつ受験（受検）し、どこにも合格しなかった者。（合格辞退者（私立・公立・国立高等学校）に、出願資格はない。）

#### ③その他の方法での入学

- ・ 海外帰国生徒選抜、外国人生徒選抜等がある。該当する可能性がある場合は、すぐに学級担任に伝える。（遅くとも令和2年11月9日（月）までに）

## 6 国立学校を希望する場合

☆ 合格した場合は、必ずその学校に進学することを前提として受検してください。

- ・ 愛知県内の国立高校は次の3つである。  
豊田工業高等専門学校（修業年限5年）  
名古屋大学教育学部附属高等学校  
愛知教育大学附属高等学校
- ・ 国立希望者でまだ学級担任に伝えていない場合、すぐに学級担任に伝える。  
（遅くとも令和2年11月20日（金）までに）

## 7 愛知県外の学校を受験する場合

☆ 保護者の勤務先の変更・転居等にとまなない、愛知県外の高等学校等を受験する場合は、いろいろな手続きが必要なため、分かり次第学級担任まで伝えてください。

（県によっては、愛知県の場合より様々な期日が早い場合がある。）

- ・ 原則として、入学願書等の出願に必要な各種書類は、保護者が取り寄せることになる。

## 8 その他の学校を受験する場合

☆ 次の学校を受験する場合は、出願方法や期日等、学級担任と相談して決めていく。

定時制課程

|      |      |      |                 |
|------|------|------|-----------------|
| （公立） | 前期選抜 | 出願   | 2月25日（木）、26日（金） |
|      |      | 入学検査 | 3月4日（木）         |
|      | 後期選抜 | 出願   | 3月19日（金）、22日（月） |
|      |      | 入学検査 | 3月24日（水）        |

通信制課程

|      |      |      |                 |
|------|------|------|-----------------|
| （公立） | 前期選抜 | 出願   | 2月19日（金）～22日（月） |
|      |      | 入学検査 | 2月28日（日）        |
|      | 後期選抜 | 出願   | 3月22日（月）～26日（金） |
|      |      | 入学検査 | 3月28日（日）        |

特別支援学校高等部やサポート校など

受験校により個別に対応します。

## 9 その他

### (1) 各種の辞退・変更について

- ・ 進路相談や事前の情報収集を十分行い、いずれの辞退・変更も行わないようにすることが賢明である。万一、辞退・変更を考える場合はご家庭でよく話し合い、決定後、ただちに中学校に連絡し、指示を受ける。
- ・ 公立高等学校の辞退・変更に必要な手続きのあらまきは以下の通りである。
  - ① 出願直前の辞退・変更  
本人と保護者が辞退・変更理由を中学校へ説明する。  
(県立高校受検者は、受検料の返還が収入証紙となる場合がある。)  
(県立高校受検者で願書を新規に作成する場合、あらたに収入証紙を購入する場合がある。)
  - ② 出願後、受検前の辞退・変更  
辞退の場合は、中学校で作成した受検辞退届と受検票を、本人と保護者で出願先へ提出する。  
変更の場合は、中学校で作成した志願変更願と受検票を、願書を提出した高校に持参し、必要書類を受け取り志望変更希望先の高等学校長に提出する。  
(志願変更は、時間が限られている中で書類を作成し、本人と保護者が最大3校をまわって手続きする必要がある。先に願書を提出した学校で手続き後、交通事情等で志望変更先の高校での手続きが間に合わなかった場合、公立高校の受検自体ができなくなる場合もあるので、変更がないよう事前に十分検討すること大切である。)
  - ③ 合格後の辞退  
中学校で作成した受検辞退届と受検票を、本人と保護者で出願先へ提出する。  
(合格辞退者は、私立・公立・国立すべての第2次選抜の受験資格が与えられない。)  
(公立高校は、定員数ちょうどで合格者を決定するため、辞退者が出ると欠員が生じる場合もある。)  
<※第2次選抜の人数には、合格辞退者の数は含まれない。>  
<※辞退者の人数に応じ補欠合格者を決定するが、この場合該当校を受検し不合格となった者のうち、どこの公立高校にも合格していない成績上位者から順に選ばれる。つまり、該当校を第1志望として受検したが不合格となり第2志望校に合格した者は、成績上位であっても該当校への合格とはならない。>

## (2) 受験(受検)上の配慮について

- ・ 病気・事故・障害等で、受験当日に配慮が必要な場合は、事前に伝える。特別な措置がとられる学校もある。(必ず措置がとられるわけではない。)  
(10月中旬までに提出された「氏名・住所・表彰等についての確認」のプリントを基に、進路相談会や個人懇談会等で相談をしていく。)
- ・ 試験当日や試験中に、やむを得ない理由で受験ができなくなった場合は、自宅を出る前ならば中学校へ、それ以後は状況に応じて、中学校、もしくは、受験先へ連絡し、指示を受ける。  
(公立高等学校は、急病または交通事故等やむを得ない理由であると認められた場合は、追検査を受検することができる。)  
(公立高等学校は、急病または交通事故等やむを得ない理由で遅刻したと認められた場合は、特別な対応にて受検することができる。)  
(公立高等学校の配慮事項の具体的内容については【資料8】参照)

## (3) 長期欠席者における受験(受検)について

- ・ 長期欠席者における特別な受験(受検)を設けている学校がある。この受験(受検)を受けたい場合は、学級担任と相談し、進めていく。  
(公立高等学校は、長期欠席者等にかかる選抜方法がある。また、第2学年、もしくは、第3学年の欠席が年間30日程度以上の場合は「自己申告書A」  
【資料9】を提出できる。)

## (4) 各種奨学金について

- ・ 専修学校・私立高校の中には、様々な奨学金(名称も様々)がある。そのほとんどは、入学金や授業料等を納付した後、8月前後に還付される形式である。そのため、入学前にお金を一旦振り込む必要がある。

## 10 最後に

### (1) 「いかに合格するか」だけでなく、「合格後にどう過ごすか」を大切にする。

- ・ どうしても「どこの学校に進学するか」「どんな職業に就くか」が頭によぎるが、「進学（就職）後、どう有意義な人生を過ごすか」を大切にしておくことが重要である。

### (2) 正確な情報を大切にする。

- ・ 「〇〇高校は・・・」「□□会社は・・・」というような話題になるが、その情報の真偽を確かめる。

### (3) 客観的な意見を大切にする。

- ・ 生徒を客観的に捉えられる人の意見を大切にしていく。
- ・ 学級担任をはじめ、学年担当教師は、様々な情報交換を行い、客観的なアドバイスをを行うことに努めている。生徒と保護者は、十分に納得いくまで、学級担任をはじめとした学年担当教師との話し合いを大切にすることが望ましい。

### (4) 最終決定は保護者と生徒にする。

- ・ 進路の選択の最終決定者は、保護者であり生徒である。

### (5) 進路関係の書類は提出期限を厳守する。

- ・ 提出期限に遅れてしまうと、相手側に受理してもらえない。中学校で指定した期日を厳守する。

（受験（受検）先から示される期日と、中学校が示す期日とは異なる。中学校では、提出物の各種内容を確認するために早めに設定される。）

### (6) 進路関係の書類は複数の目で確認する。

- ・ 生徒が作成するが、保護者も中学校も確認することで、誤りを防ぐ。